

2019年第2回ABAC（ジャカルタ）会議ニュースリリース【仮訳】

ジャカルタ

2019年4月26日

ABAC議長曰く「開放性と経済統合を支持することが今ほど重要な時期はない」

今週インドネシア、ジャカルタで会合に参加しているAPECビジネス諮問委員会（ABAC：APEC Business Advisory Council）のビジネスリーダーたちは、APEC地域がグローバル経済の重心としてダイナミックなパワーセンターであり続けることを確実にするという共通のコミットメントを強調した。

IMFが世界経済成長見通しを世界金融危機以降で最も低い水準まで引き下げ、一方WTOも今年の商品貿易の伸び率が2.6%まで落ち込むと予測したことを受け、「開放性と経済統合の深化に対するコミットメントを実践することが、今ほど重要であったことはない」とABAC議長のリチャード・フォン・アッペン氏は言う。

フォン・アッペン氏は現在の世界貿易をめぐる乱気流を認めつつも、この地域が嵐を乗り切るであろうことを楽観視している。「どんなに大荒れになろうとも、われわれは達成できると確信している。」

「われわれは皆、自分たちの地域社会にとって最良のものを望んでいる、それは即ち、モノとサービスの貿易・投資に関する障壁を取り除いたり、零細企業や女性への能力構築や、未来志向の労働力のための戦略展開、国内の構造改革の深化、域内全体で適正なインフラ整備を確保するような施策、或いはデジタル時代の様々な機会のフル活用などによって、社会の潜在力がフルに発揮されるように活力を与えることである。」とフォン・アッペン氏は言う。

「APECの国・地域はビジネスに対してまだオープンである。確かに課題には事欠かないが、しかし、この地域のビジネス界は、開放された市場と持続可能で包摂的な成長への支持を誓っている。」と彼は加えた。

APEC貿易担当大臣宛の書簡

今回のABAC会議において、ABAC委員はAPECの貿易担当大臣宛の書簡を作成し、いくつかの優先事項を打ち出したことをフォン・アッペン氏は説明した。本書簡は5月にチリのビニャ・デル・マールにおいて開かれる閣僚会議において担当大臣に提出されることとなる。

ABACはまた、今回合意したステートメントにおいて、WTOに対するビジネスの揺るぎな

い支持を表明した。そこにおいては、日々進化するビジネスモデルやビジネスニーズを反映するなどを含めたWTO改革を後押ししている（添付コピーご参照）。

「ABACからのメインメッセージはアジア太平洋地域における経済統合を推進するという重要な任務を継続するよう、閣僚に呼びかけるものである」とフォン・アッペン氏は述べた。

「子供や孫の世代のために、われわれが構築したいのは継ぎ目がなく、ダイナミックで、強靱で、持続可能で包摂的なAPEC地域である。」

「このビジョンの核を為すのは経済統合である。このコンセプトは新たな『アジア太平洋経済コミュニティ』とでも形容できるもので、自発的で非拘束的なコミュニティであり、持続可能で包摂的な成長へのコミットメントを共有するものである。このコンセプトの中心にはアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP : Free Trade Area of the Asia-Pacific）の最終的な実現を据えている。」とフォン・アッペン氏は続けた。

フォン・アッペン氏はまた、この統合への取り組みには世界貿易機関(WTO)によるルールに基づく確固たる多国間貿易システムという文脈が重要であることを付け加えた。

WTOの役割に対する支持

「WTOはAPEC地域および世界中の繁栄を何十年にもわたり下支えしてきた。WTOに基づく貿易改革は何百万人もの人々を貧困から救ってきた。WTOはまた、小国や発展途上国にも発言権を与えてきた。WTOは公平な競争環境に貢献をしてきた」とフォン・アッペン氏は強調した。

「よって、アジア太平洋のビジネス界から貿易担当大臣へのキーメッセージの一つは、WTOへの一致した強い支持である。われわれは担当閣僚に対して、WTOが必要とする支持と改革を早急に、かつ建設的に実行するよう要求した。」

「APECの貿易担当大臣に対して、5月にわれわれの書簡を提出することを心待ちにしている。APEC地域と、その中のコミュニティが繁栄を続けられるように、ビジネス界としても調和のとれた建設的な取り組みを行っていくことを、私から担当大臣に対して約束してゆくつもりである。」とフォン・アッペン氏は結んだ。

以上